



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ダウ平均は6週続伸、その他2指数は反落とまちまち—

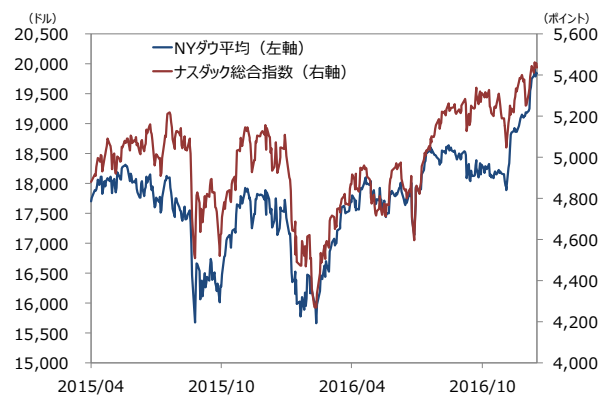
	前週終値	12月12日	12月13日	12月14日	12月15日	12月16日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	19,756.85	19,796.43	19,911.21	19,792.53	19,852.24	19,843.41	+86.56	+0.44%
騰落幅		+39.58	+114.78	-118.68	+59.71	-8.83		
S&P500	2,259.53	2,256.96	2,271.72	2,253.28	2,262.03	2,258.07	-1.46	-0.06%
騰落幅		-2.57	+14.76	-18.44	+8.75	-3.96		
ナスダック総合指数	5,444.50	5,412.54	5,463.83	5,436.67	5,456.85	5,437.16	-7.34	-0.13%
騰落幅		-31.96	+51.29	-27.16	+20.18	-19.69		

＜先週の概況＞

先週の米国市場は、ダウ平均は続伸した一方でS&P500やナスダック総合指数は小幅に反落と高安まちまちでした。

週初から上昇して始まったダウ平均は週の半ばに連邦公開市場委員会（FOMC）で1年ぶりの利上げが実施されるとともに、来年の利上げ回数が見通しが従来から引き上げられたことを受け反落しましたが、その後やや持ち直し、週間で86ドル高と6週続伸となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



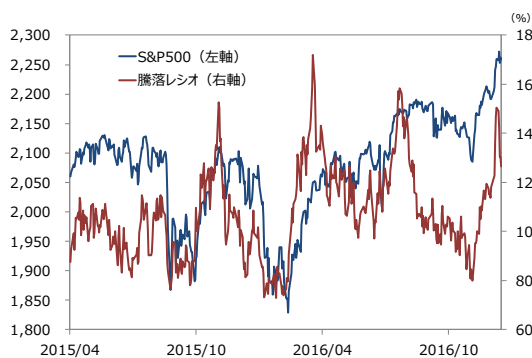
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	18.2	3.4	2.4%
S&P500	19.0	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.6	3.7	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年12月16日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

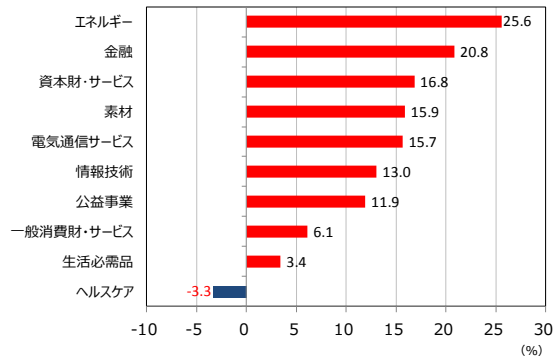
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

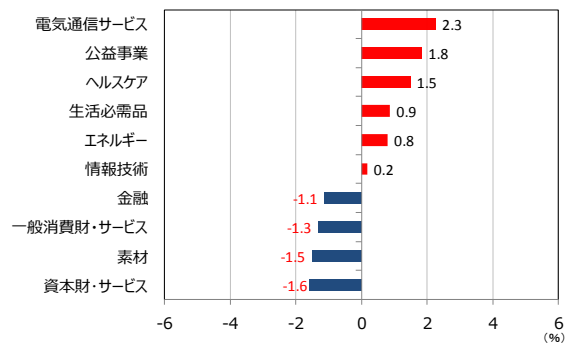
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (12/12-12/16)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
PFE	ファイザー	3.6
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	3.2
XOM	エクソン・モービル	2.4
UNH	ユニテッドヘルスグループ	2.4
TRV	トラベラーズ・カンパニー	2.0
MRK	メルク	2.0
CVX	シェブロン	2.0
AAPL	アップル	1.8
CSCO	シスコシステムズ	1.8
MCD	マクドナルド	1.6

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (12/12-12/16)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CAT	キャタピラー	-3.1
NKE	ナイキ	-1.5
BA	ボーイング	-1.3
GS	ゴールドマン・サックスグループ	-1.2
UTX	ユニテッド・テクノロジーズ	-1.2
V	ビザ	-1.0
DIS	ウォルト・ディズニー	-0.9
JPM	JPMorgan Chase & Co.	-0.6
KO	コカ・コーラ	-0.6
MMM	3M	-0.6

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均を構成する30銘柄のうち19銘柄が上昇、11銘柄が下落しました。ファイザー (PFE) とジョンソン・エンド・ジョンソン (JNJ) が3%超上昇したほか、原油価格上昇を受けエクソン・モービル (XOM) やシェブロン (CVX) もしっかりでした。

<下落>

大幅な上昇が続いていたゴールドマン・サックス (GS) とJPモルガン (JPM) の金融2社は揃って下落しました。

先週発表された主な経済指標

連邦公開市場委員会 (FOMC)

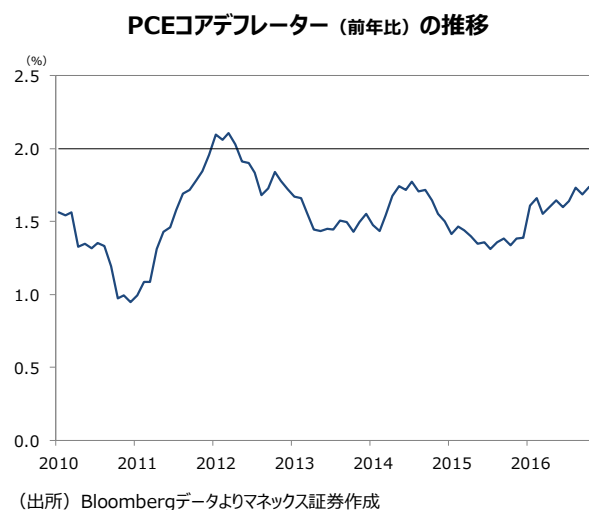
12月13日から14日にかけて開催された連邦公開市場委員会 (FOMC) でフェデラル・ファンド金利 (FF金利) の0.25%の引き上げ (利上げ) が決定されました。昨年12月以来1年ぶりの利上げです。ただ、イエレンFRB議長をはじめとしたFRB高官たちはくり返し12月の利上げ実施を示唆していたため、利上げ実施自体に驚きはありませんでした。

今回の焦点は利上げ実施の有無ではなく来年以降の経済予測 (プロジェクション) の内容でした。プロジェクションの中でも特に注目されていたのが2017年のFF金利の予想値で、結果的に同予想値は9月時点の1.125%から1.375%に0.25%引き上げられました。これは、9月時点でFOMCメンバーの来年の利上げ回数予想は2回でしたが、それが1回増え3回になったことを示唆しています。市場では金利予想は据え置かれるのではないかとの見方も出ていたため、発表を受け米長期金利は大きく上昇、115円どころだったドル円は117円台まで円安に振れました。

今後発表される主な経済指標

11月 PCEコア・デフレーター (前年比) 市場予想 +1.7% 前月 +1.7%

22日に11月のPCEコア・デフレーターが発表されます。同指標はFRBが物価上昇率の判断を行う上で重視する指標として知られています。市場予想では前年比1.7%の上昇と予想されていますが、同指標が上振れることがあれば来年の利上げ回数が更に増えることが意識される可能性があります。その場合ドル高進行要因となりそうです。



マーケットビューークリスマス休暇で閑散期間入りかー

先週の米国市場でダウ平均は上昇、その他 2 指数は下落とまちまちでした。先週のマーケットビューーでは、FOMC で来年の利上げペースが上がる事が示唆されれば円安ドル高要因となる一方で米国株の利益確定の契機となる可能性がある」と記しましたが、概ね想定内の値動きとなりました。

今週は欧米がクリスマス休暇に入るため取引が閑散になりやすく、大きな方向感が出づらいとみられます。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会